入社後の体験・エピソード（まとめ）

人生はなかなか思い通りにはいかない。
特に組織人は、職歴は自分では決められないことが多い。

組織の中では、他人から見た自分への客観的な評価が
当たっている？　評価制度はそのためのもの？
自分の何が強みなのか、
どこで自分の能力が発揮できるかは、
実は自分が一番分かっていないことが多い。

一旦納得したら、自分のミッションをとことん追求し、
今できることを無我夢中でやり切ることが重要。

人の話を「真摯に聞く」態度が必要不可欠。
最後は、ここで差がつく。

主要製品の代表的な用途例

粘着剤　：経年変化による相変化がないことで機能発揮
薄型テレビ用画面（ＬＣＤ，ＰＤＰ）
ＰＣ用液晶画面
携帯電話の内部
壁紙、カーペット、看板
ビール瓶/薬瓶のラベル
バスの車体の広告
電車のＪＲのマーク　　等々

微粉体　：混合することで機能発揮
バックライト材の光拡散材用途
コピー機のトナー
化粧品
バスタブ　　等々

メッセージ　その1

自分は何のために、何を求めて、何を目指して、
仕事をしていくのか、という大きな命題に対して、
今のうちにしっかりと、自分なりに掴んでおこう。

「考えるきっかけ」その１
：私が考える「仕事」とは

「考えるきっかけ」その２
：私が考える「仕事の報酬」とは

「考えるきっかけ」その３
：私が考える「仕事のプロ（一流）」とは

私が考える「仕事」とは

「私たちは、何のために仕事をするのか？」

「働く」とは、「傍が楽になること」。
私たちは、仕事を持って社会と接し、その仕事によって、
この世の中で自分の存在を認めてもらっている。
更に言うと、その仕事によって人格も能力も鍛えられ、
達成感も満足感も得ることができるものである。
仕事は、自分のため、家族のため、仲間のため、
そして、社会のために役立つものでなければならない。

仕事とは「自己実現の場」そのものであり、
究極は「その道でのプロ（一流）」をめざすこと

私が考える「プロ（一流）」とは　その1

「私たちは、何を目指して仕事をするのか？」

「プロ」と呼ばれている人たちは、
私たち「組織人」とは明らかに**住んでいる世界が違う**。
自己研鑽や結果へのこだわり、報酬面でも大きく
異なっている。

しかしながら、彼らの世界を冷静に分析してみると、
個人が持っている能力やスキルのレベルは
桁違いに高いものの、私たち「組織人」も究極的には、
目指すべき本質的なところでは何の変わりもないのでは
ないか。本日の副題：「仕事のプロを目指して」

私が考える「プロ（一流）」とは　その6

「まとめ」

プロ（一流）は、あくまでも自分に厳しく、
どこまでも“謙虚”そのもの（自分はまだまだとの意識）。
目指すべき本質的なところは同じである！
一流を目指そう！

その本質に迫るためにも、今からできることはあります。

自分を厳しい環境に置こうと常に心がけよう。
：絶対成長します。

若いうちにたくさん失敗しておこう。
：リカバーするコツが身に付く。
失敗したことのない人は実にもろい。
何もしなければ失敗はない。成功することも絶対にない。

修羅場と挫折をどんどん経験しておこう。
：本当の自分の武器を見つけておこう。

メッセージ　その2

大学では徹底して「考える力」を身に付けよう。
これは、社会に出てからの全てのベースになります。

「考えるきっかけ」その１
：私が考える「考える力」とは（何を？）

「考えるきっかけ」その２
：ちなみに、私が守り続けてきたこと、
言い続けていること

私が考える「考える力」とは　その1

入社した時に、徹底して教え込まれたこと（へこたれないこと）

●徹底して考えろ。そして、答えが出るまで考え抜け、
そうすれば必ず答えは得られる。

●うまくいくまでやれ。そして、成功するまでやり抜け、
そうすれば絶対に失敗することはない。

●それを考えるのが、あなたの仕事でしょう、
あなたは自分の仕事を放棄するのですか（大学とは違う）。

私の場合は入社してからの３～４年間。誰でもその時期はあります。

若いとき出さなかった汗は
老いては涙となって出るものである。

ちなみに、私が守り続けてきたこと、言い続けていること

私達はサラリーマンであってはならない、ビジネスマンであれ。

ビジネスマンは「仕事をしてお金をもらう人」「仕事のプロ」

作業はやめよう、仕事をしよう。

仕事とは「変える」ことであり、その結果自分が成長し「自分が変わる」こと

人を見て仕事をするな、仕事を見て仕事をしよう。

「ウサギ」はなぜ「カメ」に負けたのか？

挨拶ができない人に、仕事ができる人はいない。

「仕事」は決して一人の力だけで完結できるものではない。

「プロ集団」として常に最高のチームワークで、組織力の最大発揮を！

当社の行動指針「考働力」とは

当社の行動指針　：「自ら進んで考働しよう」

「自分で考え、自ら生み出した価値が最上の価値である。

自立した個からのみ、オリジナリティーと創造性が生まれてくるものである。

「常に社内･社外に目を向け、人の話を謙虚に受け止め、最後は自分で決断する。」

コミュニケーションの基本は、謙虚さと間口の広さであり、

最後は腹決めの覚悟である。

「自分で決断したことは信念と勇気をもって必ず実行する。」

決断して終わるのではなく、むしろその後の実行こそが全てである。

信念とは人生の羅針盤であり、勇気とは人生の礎である。

「考働力」とは、その答えを自分の言葉で言えること。

自分で考えて、考えて、そしてとことん考えて定義する力。

私が見てきた「失格社員」

指示待ち型社員

言われたことはきちんとやるが、言われないことは徹底してやらない。

自発性のカケラもない、「作業」に埋没している「マニュアル人間」

四畳半型社員

自分の机をお城に見立て、外敵を一切寄せ付けず。

たった一人でコッソリ･黙々と「作業」している「孤独癖のオタク」

クレナイ型社員

「予算をクレナイ」「支援してクレナイ」「チャンスをクレナイ」

誰も何もしてクレナイからできない「責任転嫁の常習犯」

そば屋の出前型社員

指示に対しては「ハイ！」といつも調子の良い返事。

いつまでたっても報告無し。催促すると「あっ、今やってます！」